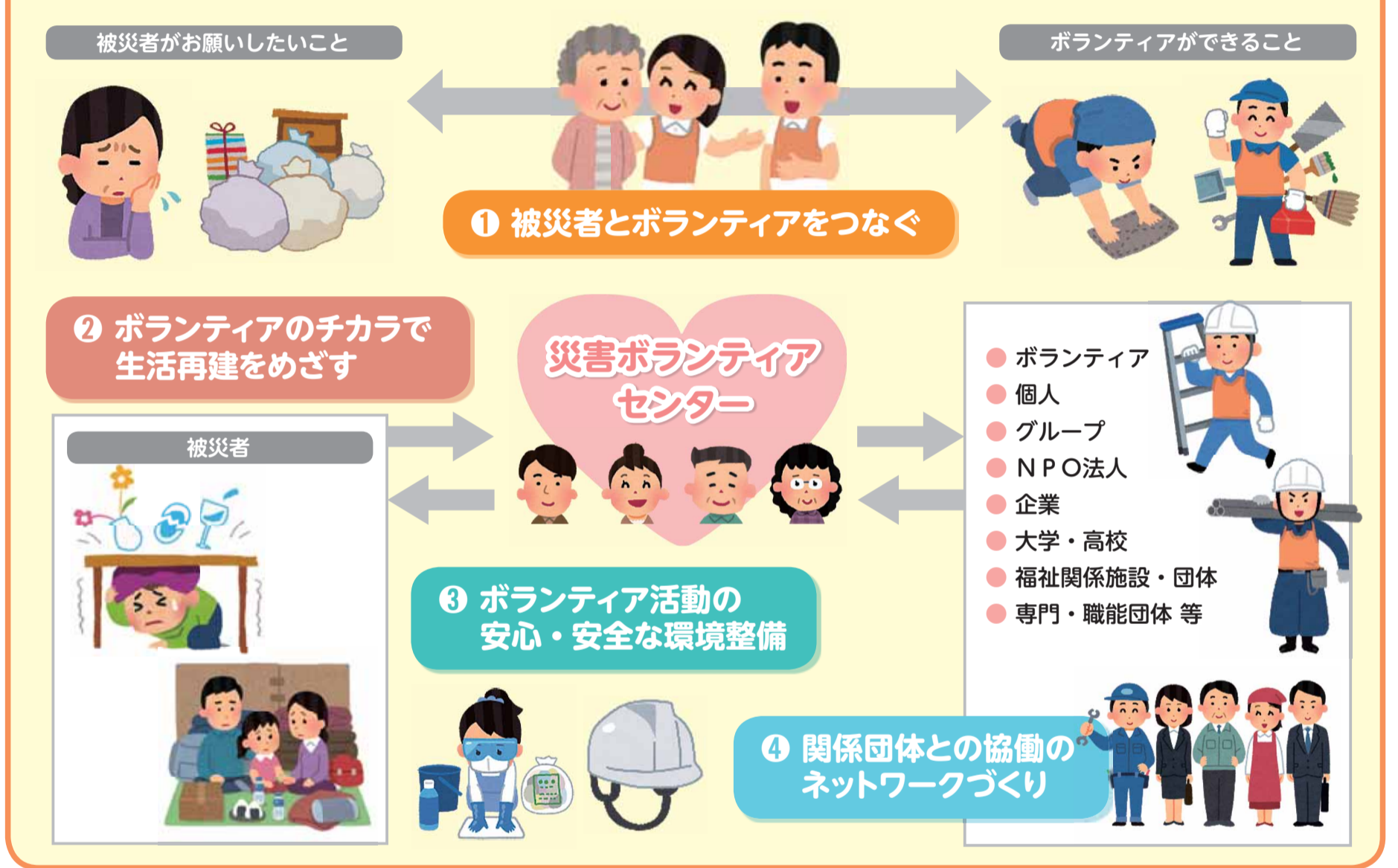


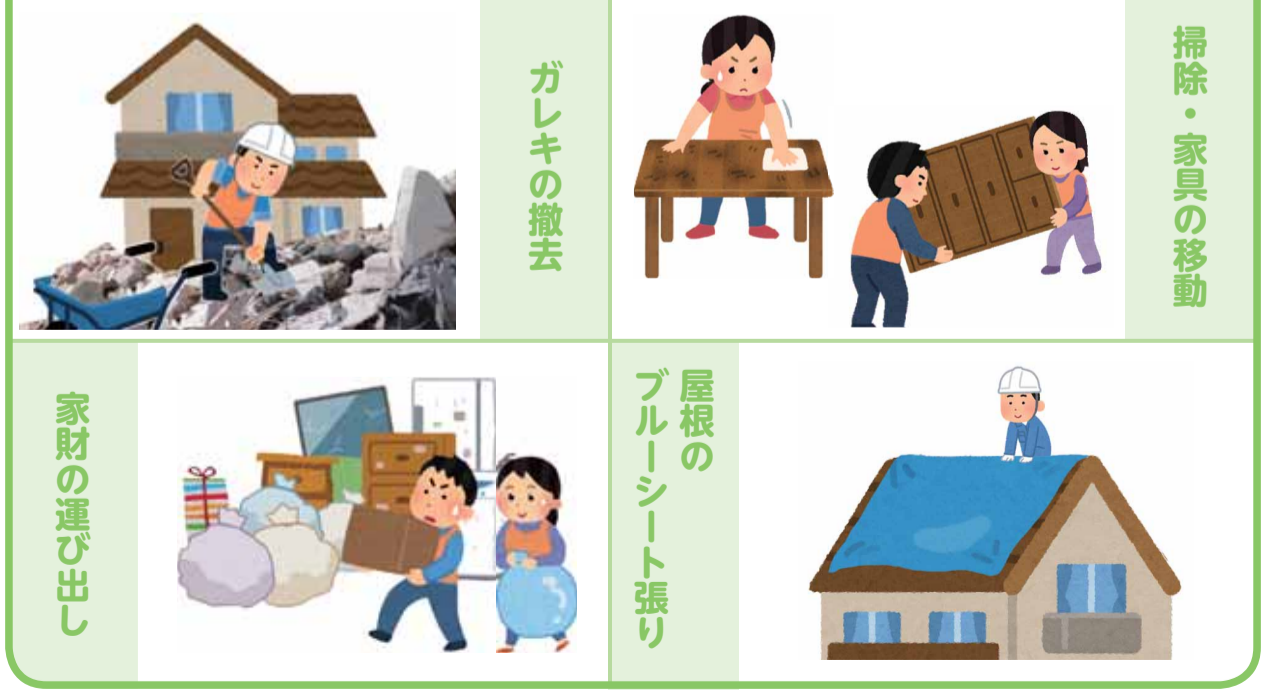
## 熱意は人を動かし、社会を動かす！ 大阪北部地震 災害支援の現場から

6月18日(月)午前7時58分頃、大阪府北部を震源とするマグニチュード6.1の地震が発生。北摂を中心に震度5強から6弱の揺れを観測し、家屋の損壊やガスの供給停止、断水などが起こった地域も。被害の大きかった7市の**社会福祉協議会**に、**災害ボランティアセンター**が設置された。災害ボランティアセンターには、大阪府を中心に、日本各地からボランティアが集まり、社会福祉施設、NPO法人、学生ボランティア、専門的技術をもつボランティアなどが活躍した。

### 災害ボランティアセンターの役割



### 大阪北部地震の被災地で必要とされた主な支援(例)



### 学生ボランティアが大活躍!

今号では、「NPO 法人国際ボランティア学生協会(通称IVUSA)」の活動を紹介します。大学生である彼らは、大阪北部地震の発生直後から、ボランティア活動だけでなく、被災者の困っていることに寄り添い、被災者と災害ボランティアセンターをつなぐ役割を担った。IVUSAは、茨木

市や高槻市で、災害ボランティアセンター設置のお知らせのチラシを配付したり、被害の大きかった地域のお宅へ訪問し、困りごとがないかどうか聞き取り調査を行うなど、特に被災者の困っていることに寄り添い、被災者と災害ボランティアセンターをつなぐ役割を担った。

**I**nternational  
**V**olunteer  
**U**niversity  
**S**tudent  
**A**ssociation

NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)とは?

IVUSAは、全国の大学生約4100人が所属する学生ボランティア団体。災害救援・国際協力・環境保護・地域活性化・子どもの教育支援の5つの分野を軸に活動している。学生は関東・関西に約半数ずつ、全国に存在する32の各クラブに所属し、大学や地域に根ざした活動を行う。

**現場で最高のパフォーマンスを**

活動の目的は、現場でのニーズに最大限応えることであり、チームワークが必要不可欠。そのため、普段からチームとして動くように自己理解や他者理解などのための研修力を入れている。それぞれの活動場所でも冷静かつ適切な対応ができるように、事前に研修を行い、想定されるリスクを挙げてその解決策を考えていくとともに、会員同士での情報共有を行う。

**全ては被災された方のため**

大阪北部地震発生後、IVUSAの大阪茨木クラブと日頃からつながりのあった茨木市社協からボランティアの協力依頼があった。発災翌日から茨木市で活動を開始。地域をまわり、一軒ずつ災害ボランティアセンターのチラシを配ったり、「何か困っていることはないですか」と聞き取りを行い、ニーズがあれば家財整理も手伝った。



**誰かの心に響く活動を**

活動中に心がけていたのは住民に寄り添うこと。困りごとの聞き取りを行っていた際に、倒れた家具を起してほしいとの依頼があった。学生が現地に行く

と一人暮らしの高齢者が住んでいた。学生は女性の表情や声のトーンが暗いことに気づき話をしていると、一週間前に夫を亡くしたという。そこに地震が起き、女性は心細く片づけもできない状態だった。学生は、淡々と活動をするのではなく、女性の心配ごとや困りごとを自分のことと捉えるように心がけた。活動を終えると、女性は涙ながらにお礼を述べられた。



**災害ボランティアセンターのチラシ配りに出発!**

西日本運営本部部長の坂本奈月さんは、「自分たちの拠点(事務所)がある地域が被災したのは初めて。まずは、発災直後にLINEを使ってそれぞれクラブで会員の安否確認を行い、同時に翌日から大阪で活動できる人を募った。学生の中には被災して避難所

もっと知りたいと思ったら... **IVUSA** **検索**



**負けてたまるか Tシャツの由来**

当事者意識をもつように自分のことと捉えて活動するの思いからはじまったもの。

とふれあわない活動もあったが、被災地のためになるなら「この思いで住民たちの困りごとを掘り起こすため、積極的に行った。さらに、都市部での災害のため被害状況が外から見えにくく、道を挟むと被害が無いことや、支援が行き届かないことに活動の難しさを感じることもあった。そのため、IVUSAとしてはまず、困っている人を一人ぼっちにさせないように一軒ずつ丁寧に訪問した。こうしたことが誰かの力になっていると信じている」と活動にかける熱意を語った。

**高校生へのメッセージ**

学生は、微力ではあるかもしれないが、無力ではない。多くのボランティア活動を通して実感してきた。だから、いつも自分に何ができるかを考え、行動している。そして、多くの仲間とともに、社会で困っていることや課題に挑戦することで新しい自分に出会っている。

私たちと一緒に、はじめの一歩を踏み出してみませんか。